

第5回 シールドトンネル施工技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和3年12月17日（金）10：00～11：30

2. 出席者

龍岡文夫委員長、久保和幸委員、建山和由委員、佐藤研一委員、三村衛委員
※森川嘉之委員および神田政幸委員は欠席

3. 議事概要

- ガイドライン（案）について、事務局より説明を行った。
- 建設会社より提出のあったトラブルとその対策の事例について、事務局より説明を行った。
- 説明後の質疑応答において、委員より以下の趣旨の意見があった。
 - ・建設会社より提出のあったKセグメントの抜き、テールブラシの反返り、裏込材の浸入の事例とそれぞれの対策の内容を踏まえ、設計や施工にあたり考慮すべき事項をガイドラインに書き込むことが必要である。
 - ・地歴の情報を得るためには、古地図等の地表部の情報に加え、地盤調査結果のデータベース等の地盤に関する情報もあり、地歴調査の手法として重要である。
 - ・施工段階においては、リスクとその対応の考え方を整理し対応することを基本としつつ、想定外の事象が発生することも念頭に置いて、実際に発生した場合に関係者が連携して臨機に対応するとの考え方が必要である。
 - ・施工にあたっては、掘進が順調で周辺環境への影響がないと予断することなく、注意を怠らず、関係する全ての施工管理項目の慎重な監視に努めることが必要である。
 - ・ガイドライン（案）において、文章が長いなど、分かりにくい箇所があるため、文章を区切るなど、分かりやすくするように修正を行うことが必要である。
- 上記の施工に関する意見（意見のうちの上記3点目及び4点目）のガイドラインへの反映について、内容を委員全員に確認するとともに、その他の修正内容については、委員長に一任となった。ガイドラインは、成案を得て、ホームページに掲載することとなった。